

## 医師に対する学童保育支援の必要性

<sup>1</sup>東京女子医科大学内分泌外科<sup>2</sup>東京女子医科大学女性医師生涯研鑽支援委員会\*<sup>3</sup>東京女子医科大学総合研究所研究部<sup>4</sup>東京女子医科大学神経内科<sup>5</sup>東京女子医科大学小児科<sup>6</sup>東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター整形外科<sup>7</sup>東京女子医科大学医学教育学<sup>8</sup>東京女子医科大学遺伝子医療センター

コダマ 児玉ひとみ<sup>1</sup>・タケミヤ タカコ<sup>2,3</sup>・タケウチ チセン<sup>4</sup>・カトウ イクコ<sup>5</sup>・ムラコシ カオル<sup>6</sup>  
 オオクボ ムミコ<sup>7</sup>・サイトウ カヨコ<sup>2,8</sup>・オオサワ マキコ<sup>2,5</sup>・オカモト タカヒロ<sup>1</sup>・オハラ タカオ<sup>1</sup>

(受理 平成 22 年 2 月 9 日)

## Establishing an After-school Child Care System for Doctors

Hitomi KODAMA<sup>1</sup>, Takako TAKEMIYA<sup>2,3</sup>, Chisen TAKEUCHI<sup>4</sup>, Ikuko KATO<sup>5</sup>,  
 Kaoru MURAKOSHI<sup>6</sup>, Yumiko OKUBO<sup>7</sup>, Kayoko SAITO<sup>2,8</sup>, Makiko OSAWA<sup>2,5</sup>,  
 Takahiro OKAMOTO<sup>1</sup> and Takao OBARA<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Endocrine Surgery, Tokyo Women's Medical University<sup>2</sup>Committee for Lifelong Learning of Women Doctors, Tokyo Women's Medical University<sup>3</sup>Medical Research Institute, Tokyo Women's Medical University<sup>4</sup>Department of Neurology, Tokyo Women's Medical University<sup>5</sup>Department of Pediatrics, Tokyo Women's Medical University<sup>6</sup>Institute of Rheumatology, Tokyo Women's Medical University<sup>7</sup>Department of Medical Education, Tokyo Women's Medical University<sup>8</sup>Institute of Medical Genetics, Tokyo Women's Medical University

\*平成 21 年 4 月より、男女共同参画推進局に発展いたしました。詳しくは大学 HP を御覧下さい。

It is always difficult for many women doctors to manage both a career and raising children. Although child care facilities for infants have been established and child care supporting systems have improved, women doctors are often compelled to give up their careers as the care system for after-school children remains insufficient. In March 2007, we conducted a survey regarding the need for an after-school child care system at Tokyo Women's Medical University with the aim of establishing such a system. Subjects consisted of 1,069 doctors aged ≤50 years and 500 medical students of the university. Of the 315 doctors and 56 medical students respondents (response rate, 29.5%, 11.2%), 31 (all of doctors) responded that they would immediately use an after-school child care facility if it was established, 135 (111 doctors and 24 medical students) suggested possible future use, and 205 (173 doctors and 32 medical students) responded that it would be beneficial to have such a facility although they did not require such services at present. Many doctors wanted to be able to use the facility for long hours, including early mornings, evenings and weekends. These results strongly suggested the necessity of establishing an after-school child care system. In addition, medical students had the opportunity to think about managing both a career and raising children, and the necessity of after-school child care.

**Key words:** women doctors, after-school child care, support for doctors

## 緒 言

子育てと仕事を両立するために、医師（特に女性医師）は保育支援に頼るところが大きい。少子化、医師不足が社会問題となり、さらに女性医師が確実に増えている現代においては、女性医師の子育ても個人の問題として放置するのではなく、社会全体の重要課題として取り上げ、必要な育児支援を積極的に行っていく必要性が増している。

産後休暇または育児休暇後より小学校就学までの乳幼児保育に関しては、多様性のある保育所が普及し支援システムも構築されつつあり、以前に比べて選択肢が増えている。しかし、小学校児童の放課後や長期休暇中の保育を行う学童保育については、数、内容ともに未だ選択肢が少なく、医師の勤務状況に対応できているとは考えにくい。そのため、出産後に復職し子の乳幼児期を乗り越えても、小学校就学を契機に勤務形態を変えざるを得ない医師（特に女性医師）が多い。そこで、今回就学児を持つ医師のニーズを明らかにするため、東京女子医科大学（本学）内に学童保育施設を必要とする医師数、およびその希望する内容についてアンケート調査（図1）を行い、医師に対する職場内学童保育システムの必要性を検討した。また、本学は学生が全員女性であるという特殊性から、将来医師となり子育てをする際および現在子を持つ学生に対する学童保育のニーズを把握する目的から、医学部学生へのアンケート調査も同時に行った。

### 対象と方法

平成19年3月に、本学の50歳以下の医師1,069人と医学部学生500人の合計1,569人に、アンケート調査を行った。医師に対する調査は、アンケート用紙を各医局宛に送付し回答後に返送を依頼した。2～6年生の学生500人には、授業後にアンケート用紙を配布し回収した。調査内容は、まず、学内に学童保育が設置された際の利用希望として、「すぐにでも利用したい」、「今後利用するかもしれない」、「利用はしないが、あった方がよいと思う」のいずれかを選択する。次に、「すぐにでも利用したい」、「今後利用するかもしれない」を選択した回答者が、さらに希望する利用頻度、時間帯を選択することとした。本調査は学内学童保育の実現を目指していたため、利用希望者と連絡がとれるようアンケートは記名方式とし、用紙には所属、氏名、連絡先の記入も依頼した。

学内の学童保育設置希望調査（実施月：H19年 3月）	
質問1	女子医大に学童保育が設置された際の利用希望について
	a. すぐにでも利用したい b. 今後利用するかもしれない c. 利用はしないが、あった方がよいと思う
質問2	a, bに丸をつけた方にお聞きします。 学童保育の利用頻度と利用時間は以下のどれに該当しますか。
	<input type="checkbox"/> 月～金 <input type="checkbox"/> 月～土 <input type="checkbox"/> 月～日 <input type="checkbox"/> 1～2回/週 <input type="checkbox"/> 3～4回/週 <input type="checkbox"/> 朝7～8時 <input type="checkbox"/> 学校終業～18時 <input type="checkbox"/> ～19時 <input type="checkbox"/> ～20時 <input type="checkbox"/> ～21時 <input type="checkbox"/> ～22時
	所属 _____
	名前 _____
	連絡先 _____

図1 学内の学童保育設置の希望調査内容

## 結 果

50歳以下の医師1,069人に配布した学童保育希望調査は315人が回答し（回収率29.5%）。その内訳は「すぐにでも利用したい」31人、「今後利用するかもしれない」111人、「利用はしないが、あった方がよいと思う」173人であった。

利用希望頻度や利用希望時間については「すぐにでも利用したい」と「今後利用するかもしれない」のグループだけが回答することになっているので、「すぐにでも利用したい」と回答したグループをAとし、「今後利用するかもしれない」と回答したグループをBとして、まず医師についての解析を行った。AとBに含まれる医師142人の男女別人数と学内所属を表に示す。男女の人数を比較すると、男性33人に対し女性104人であり、女性が全体の73.2%を占めた。回答者の所属は内科が最も多く、次いで外科、卒後臨床研修センターとなり、さらに小児科、整形外科、皮膚科がそれに続いた。医師の利用希望頻度、希望時間について、AとBに分けて回答結果を示す（図2、3）。医師の利用希望頻度は、A、B共に月～土の週6日の希望が最も多く次いで月～金の週5日の希望が続いた。Aは月～日の週7日の希望もそれと同等数であり希望未定者はいなかったが（図2A）、Bは週3～4日の希望や、まだ希望が未定の人も同程度見られた（図2B）。夜間利用希望時間は、A、B共に18時まで～22時までに分散するパターンを示したが、Aは希望不明者がなかったのに対し（図3A）、Bは15人（13.5%）存在した（図3B）。これらの結果から、Aの方がより明確な希望を持っていることがわかる。朝の利用については、Aが10人（32.3%）に対しBが13人（11.7%）であり、Aの希望が高いことがわかった。

一方、学生500人に配布したアンケート調査は56

表 アンケート回答医師の男女・所属内訳

所属	女性 (人)	男性 (人)	合計 (人)
内科	37	6	43
外科	6	7	13
小児科	6	2	8
産婦人科	2	0	2
整形外科	4	4	8
眼科	6	1	7
耳鼻科	3	1	4
皮膚科	8	0	8
泌尿器科	2	3	5
精神科	3	1	4
脳外科	0	1	1
放射線科	2	3	5
1次診療科	1	0	1
麻酔科	1	0	1
卒後センター	10	2	12
基礎系	4	2	6
付属施設	3	0	3
所属不明	6	0	6
男女合計	104	33	137
男女不明			5
総計			142

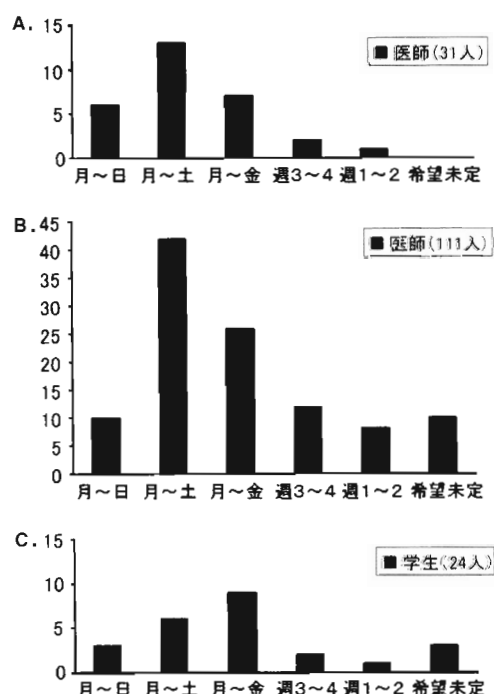


図2 学童保育の利用希望頻度

A: すぐにも利用したい医師, B: 今後利用するかもしれない医師, C: 学生.

人が回答し (回収率 11.2%), 「すぐにも利用したい」の回答者はなく, 「今後利用するかもしれない」24人, 「利用はしないが, あった方がよいと思う」32人であった. 学生には A の回答はなかったので, B と回答した人の利用希望頻度 (図 2C), 希望時間 (図

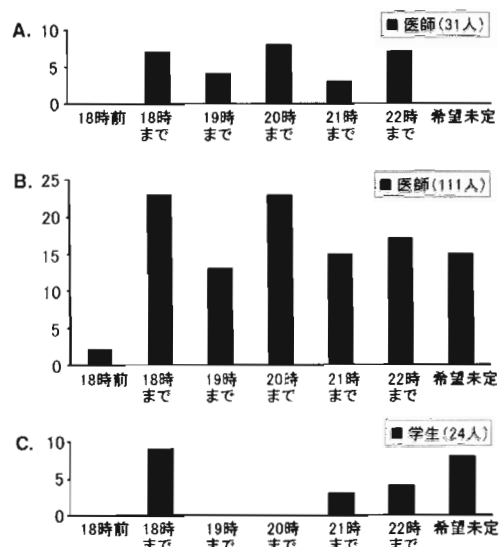


図3 学童保育の利用希望時間

A: すぐにも利用したい医師, B: 今後利用するかもしれない医師, C: 学生.

3C) を示す. 学生の利用希望頻度は, 月～金の週5日の希望が最も多く, 次いで月～土の週6日の希望が続いた (図 2C). この順番が医師の希望とは逆であったが, それ以外のパターンは類似していた. しかし, 夜間利用希望時間は, 18時までと希望不明者が多く, 医師のパターンとは異なる結果を示した (図 3C). 朝の利用希望については, 3人 (12.5%) であった.

### 考 察

これまでに, 女性医師が育児と仕事を両立するためには, 保育所同様に学童保育が必要であるということが報告されてきた<sup>1)～3)</sup>. しかし, 学童保育の施設内設置についての必要性を検討した報告はなかった. そこで今回, 女子医大内において学童保育施設があれば利用を希望する医師数とその利用頻度・時間を調べ, 学内における学童保育施設の必要性を検討した (図 1).

学内における学童保育施設の設置について, 315人の医師 (29.5%) と 56人の学生 (11.2%) から設置希望を示す回答が得られた. 医師への本アンケート配布の男女比は明らかでないが, 平成 19 年 3 月時点の女子医大本院所属医師が 1,056 人であり, そのうち男性医師は 629 人, 女性医師は 427 人であったことを考慮すると, アンケートの配布男女比はおおよそ 6:4 と考えることができる. しかし, 回答者の 73.2% は女性であり, 男性の回答数が女性に比べて極端に少ないことがわかる. これは男性医師全体としての育児に関する関心や意識の低さから出た結果かもしれない. また, 各科の回答数は学童保育の認

知度や必要性をある程度反映しているのではないかと考えられる(表)。

医師が望む学童保育は、早朝や夜間を含む長時間保育であり、その利用は平日にとどまらず、土曜日や日曜日も含めた希望であった(図2, 3)。これは医師という業務の特殊性を反映したものであると考えられた。また、「すぐにでも利用したい」と回答した人は、すでに具体的な利用希望内容を持っていることが明らかとなった。現在広く普及している学童保育は、公的施設を利用し、公営または公的保障を受けて運営しているところが多いが<sup>5)</sup>、その多くは18時まで、最長でも19時であり、早朝や19時以降の夜間保育は行われていない。また、土曜日の利用は一部の施設に限られ、日曜・祝日への対応はない。そのため、そのような施設では、今回示された医師の必要性には応えることができない。以上より、医師の勤務の特殊性を考慮したような学童保育施設が必要であり、医師らはそのような学童保育が学内に設置されれば利用したいと考えていることが明らかとなった。

一方、学生の場合は、回答率も低く回答内容も医師の回答に比べると実際のニーズに即していない可能性があるが、それは未婚者が多く学童保育設置の要望が切実ではないためと思われる。しかし、今回のアンケート配布は、学生に対して育児と仕事の両立、学童保育の必要性などの問題提起をする機会になった。

育児を行いながら医師としての研鑽を積み臨床現場に対応することが大変困難であることは周知の事実であり、その時期の離職者が多いことはこれまでも知られてきた。特に、臨床現場での責任が高まる30~40歳代の女性医師が、就学児の子育てと両立させるための選択肢は明らかに少ない。このような背景のもと、今回の調査は学童保育支援の賛否を問うのではなく、医師としての職業を継続するにあたり障壁となっている「学童児の育児」に対する支援を必要とする人のニーズを調べることを目的として実施した。本調査の回答率が約30%であったことから、全体の70%に相当する未回答者には、設置に反対もしくは同意できない人が含まれている可能性がある。本来、学童保育設置は小学生の子を持つ医師に限られた要望であり、その条件を満たす人は限定される。さらに学童保育に対する一般的な認知度は未だ低い。そのため、学童保育が必要な状況におか

れていない人が、その必要性を理解し支持するのは難しいと考えられる。しかし、今後学童期の子育ても安心してできる環境が整えば、子育てとの両立が困難と思われてきた外科などの診療科を選択する女性医師も増え、様々な立場の医師が等しく働き易いと感じ、患者本位の医療に専念できる環境作りにつながるのではないだろうか。

これまでも、本学では、女性医師が働き続けるための調査を行っており<sup>3)</sup>、学童保育の必要性に関する認識は高かった。また、同学では、平成18年に女性医師生涯研鑽支援委員会が発足して以来、子育て中の女性医師支援に積極的に取り組んできた。平成19年3月に行った本調査後に、さらに詳細な学童保育調査を始め、平成20年4月からの試行期間を経て、同年12月から、本格的な学童保育支援を開始している。その詳細については別に報告しているが<sup>6)</sup>、本調査で若手医師から学童保育施設設置の必要性を示したことは、上記委員会が本格的にこの問題に取り組む際の原動力となった。これは本研究の成果の1つと言えよう。今後は、他施設においてもこのような現場のニーズに応えた保育支援が普及し充実していくことが望まれる。

## 結 語

本学の中で医師に対する学童保育設置の必要性を検討したところ、医師の勤務の特殊性を考慮した学童保育が必要であることが明らかとなった。

## 謝 辞

学童保育を希望し、アンケート調査に協力して下さった皆様、および大学関係各位に深謝いたします。本研究の一部は、厚生労働省成育医療研究委託事業の支援を受けて行った。

## 文 献

- 1) 大澤真木子, 西蔭美和, 伊藤万由里ほか: 特集 女性医師と病院 医学部女子学生と大学医局における女性医師. 病院 61 (9): 716-721. 2002
- 2) 大澤真木子: 女性医師の勤務支援. 日医師会誌 131 (1): 65-69. 2004
- 3) 大澤真木子, 加藤郁子, 小峰真紀ほか: 女性医師の卒業後の動向とその問題点. 小児臨 58 (11): 2325-2332. 2005
- 4) 学童保育 施設整備の手引き. pp6-7. 全国学童保育連絡協議会. 東京 (2008)
- 5) 田中朱美, 清水 悟, 澤口彰子ほか: 日本における女性医師の現況に関する調査研究—全女性医師(対象27,779名)に対するアンケート結果から—. 医教育 28 (3): 181-186. 1997
- 6) 竹宮孝子, 竹内千仙, 児玉ひとみほか: 医師の勤務に対応する学童保育支援の検討. 東女医大誌 79 (9・10): 394-401. 2009